



# 世界かんがい施設遺産

## 「竹田のかんがい用水群」登録記念

竹田サイコープロジェクト

「たけたのイロについてイロイロカタロー」発表会



日 時 令和8年1月21日(水)受付 9:00～  
開会 9:30～閉会11:00(予定)

場 所 グランツたけた 廉太郎ホール

観 覧 無 料

お問い合わせ 竹田市世界かんがい施設遺産登録推進実行委員会  
(竹田市農林整備課 ・ 竹田地域土地改良推進協議会)  
電話 0974-63-4806

## 次 第

- |                         |                 |       |
|-------------------------|-----------------|-------|
| (1) 開会あいさつ              |                 | 9:30  |
| (2) 主催者あいさつ             |                 |       |
| (3) 井路の説明               | ・竹田市 まちづくり文化財課  | 9:40  |
| (4) 井路について発表 (1校20分×3校) |                 |       |
|                         | ・発表1 荻小 4年生 8人  | 9:50  |
|                         | ・発表2 城原小 5年生 2人 | 10:10 |
|                         | ・発表3 祖峰小 5年生 8人 | 10:30 |
| (5) 感謝状授与               | 荻小、城原小、祖峰小 代表者  | 10:50 |
| (6) 閉会あいさつ              |                 | 11:00 |

### ～ 目 的 ～

・井路に関して、先人たちの熱意と苦勞を知り、かんがいに対して理解をする。

・歴史的かんがい構造物について保護・保全への思いを深める

・児童生徒の発表を聞き、発信することの大切さに気づく

## 世界かんがい施設遺産とは・・・

かんがいの歴史・発展を明らかにし、理解醸成を図るとともに、かんがい施設の適切な保全に資するために、歴史的なかんがい施設を国際かんがい排水委員会（ICID）が認定・登録する制度です。

※参考

ICID=国際かんがい排水委員会(ICID本部(インド・ニューデリー)、ICID国内委員会(事務局:農林水産省農村振興局設計課))



- ・ 世界かんがい施設遺産の対象施設・登録基準
  - 建設から100年以上経過（供用廃止施設も対象）
  - 次のいずれかの施設
    - ①ダム（かんがいが主目的）②ため池等の貯水施設③堰、分水施設 ④水路
    - ⑤排水施設⑥古い水車 など
  - 9項目の基準のうち1つ以上満たす施設【9項目のうち主な基準】
    - ①かんがい農業の画期的な発展、食料増産、農家の経済状況改善に資するもの
    - ②構想、設計、施工、規模等が当時としては先進的なもの、卓越した技術であったもの
    - ③設計、建設における環境配慮の模範となるもの等

## 世界かんがい施設遺産認定決定

令和7年2月13日にICID国内委員会へ申請。同年4月25日にICID国内委員会審査を通過し同年5月13日にICID本部へ申請。

令和7年7月23日にICID国内委員会を通じてICID本部より、「竹田のかんがい用水群」を世界かんがい施設遺産に認定することを決定(登録日:令和7年9月10日)。  
右側は認定発表会を開催した際の写真です。



左は令和7年9月10日（水曜日）、マレーシア・クアラルンプールで開かれた認定式に出席し登録証と記念盾の授与。

## かんがい（灌漑）施設の一例

大野川(おおのがわ)流域面積1,465 km<sup>2</sup>、長さ107 kmあります。上流の中山間部の水田をかんがいする**大小21本の用水路群**があり、多くが江戸時代から明治・大正時代に築造されている



①城原井路(1663年築造)左側は 城原神社横を流れる「三面石造り水路」。右側は「落門の流四季真景図」(大正13年)

### 【かんがい施設の一例】

①最も古い**城原(きばる)井路**(1663年築造)は、**総延長が約130 km**あり、点在する水田へ用水を供給するため、**約1,300の分水箇所**がある。

②**荻柏原(おぎかしわばる)井路**(1924年築造)は、山地や丘陵をくり抜く水路トンネルの数が**大小200**、**総延長約33km**建設され、**水路工事には日本で初めて電気削岩機が使用。**

③**明正(めいせい)井路**(1924年築造)は、総延長約17.5 kmもあり、**17基の水路橋**があり、特に、**6連アーチ橋**は国内最大規模の石造水路橋。

④**富士緒(ふじお)井路**(1914年築造)の水源は白水溜池で国の重要文化財に指定されている。また、用水を補給するため、山崎川(大野川1次支川)からも取水。幹線水路長は約14.2 km。



②荻柏原井路(1924年築造)電動削岩機を使用した岩削削(当時)水路工事では日本で初めての施工。



③明正井路(1924年築造)「第一拱(こう)石橋(せききょう)」(国内最大規模の石造水路橋・土木遺産)。左側は現在の状況、右側は 第一号拱石橋工事中(大正8年5月撮影)



④富士緒井路(1914年築造)「四俣水路」左側は 現在の水路の状況 中段は 築造当時(大正3年撮影) 右側は 白水ため池(関連施設)



「白水ため池」(1938年竣工)(国の重要文化財)流れ落ちる水は水泡を含んで名称のとおり白水となって流れ落ちることから日本一「美しいダム」と呼ばれる。

## 認定により期待される効果

①将来を担う子供たちに、水路の開削について学び、自分の住んでいる地域を誇りに思ってもらえるよう、教育の場で活用する。

(教育学習)



市内小学生による学習発表

②かんがい施設を活用した観光振興はもとより、かんがい用水を使った農産物への付加価値をあたえることにより、国内外へのPRに繋げる。

(観光・農業振興・情報発信)

③かんがい施設の持続的な活用や維持管理への支援を行い、維持管理に関する意識向上を図る。

(施設の維持管理)



井路開削に感謝する水恩祭



地元小学生の施設の見学会



井路の清掃(維持管理)